

## 令和4年度 シラバス（地歴）

学番 28 新潟県立村上桜ヶ丘高等学校

教科	科目	単位数	教科書名	副教材名等
地歴	地理総合	2	高等学校新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）	フォトグラフィア地理図説 2022 （とうほう）

### 1 学習目標

到達目標、 具体的な取り組み 及び留意点	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を目指す。
授業形態及び 履修条件等	1年次の必修科目

### 2 学習計画

月	指導単元	指導内容	考查及び 評価方法	時 数	評価の ポイント
4	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結びつきを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域	1 地球上の位置と私たちの生活 2 時差と私たちの生活 3 地球儀と地図 4 身の回りの地図 5 統計値図の種類と利用 6 地理情報システムの利用 7 現代世界の国家 8 日本の位置と領域	第1回考查	5	考查の素点 提出課題 ノート提出
	2節 グローバル化する世界 第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理 1節 世界の地形と人々の生活	1 国家間の結びつき 2 貿易により結びつく世界 3 様々な交通網の発達 4 世界を結ぶ交通網の発達 5 観光のグローバル化 6 大地形・変動帯・安定地域の人々の生活 7 河川がつくる地形と人々の生活			
5			第2回考查	7	考查の素点 提出課題 ノート提出
6	1節 世界の地形と人々の生活	1 海岸地形と人々の生活		7	
	2節 世界の気候と人々の生活	2 氷河・乾燥・カルスト地形 1 気温・降水量と人々の生活			

	2節 世界の気候と人々の生活	2 大気大循環と人々の生活 3 世界の植生と気候区分 4 熱帯の生活 5 乾燥帯の生活 6 温帯の生活 7 亜寒帯・寒帯の生活			
--	----------------	--	--	--	--

7	追究事例 自然（東南アジア）  3節 世界の言語・宗教と人々の生活 追究事例 宗教 イスラームと人々の生活	1 モンスーンの影響を受けた人々の生活 2 気候を生かした農業と生活 3 世界の言語と人々の生活文化 4 世界の宗教と人々の生活文化 5 イスラームを中心とした生活文化	第3回考査	7	考査の素点 提出課題 ノート提出
8		6 ムスリムの生活		2	
9	4節 歴史的背景と人々の生活 追究事例 歴史（ラテンアメリカ）	1 歴史的背景が人々に与える影響 2 ヨーロッパ社会の影響が強い文化 3 大土地所有制度が生み出した社会構造 4 外国資本による工業化と生活の変化		7	
10	追究事例 産業 アメリカ合衆国  ヨーロッパ  第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題	1 世界に大きな影響力を持つ知識産業と資源 2 世界の食卓に影響を与える農業 3 EU 統合と人々の生活 4 EU 統合による農業・工業や社会への影響 5 地球的課題とその解決 6 多様な環境問題 7 熱帯林破壊・地球温暖化対策	第4回考査	7	考査の素点 提出課題 ノート提出
11	3節 資源エネルギー問題  4節 人口問題	1 世界のエネルギー・鉱産資源 2 エネルギー利用の現状と課題 3 地域で異なるエネルギー問題への取組 4 世界の人口 5 途上国と先進国の人口問題 6 地域で異なる人口問題への取組		7	
12	5節 食糧問題	1 飢餓と飽食		6	

	6節 都市・居住問題	2 食糧問題への取組 1 世界の都市の発展 2 途上国と先進国の都市・居住問題 3 都市居住問題への取組	第5回考査		考査の素点 課題提出 ノート提出
1	第3部 持続可能な地域作りと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災	1 日本の地形 2 日本の気候 3 地震・津波による災害 4 地震・津波の被災地の取組 5 火山の恵みと災害 6 火山と共生する地域の取組 7 国際平和と日本の役割		7	
2	4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え	1 様々な気象災害 2 気象災害への取組 3 減殺の取組 4 被災地への支援		6	
3	第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望	地理的な課題と地域調査		1	課題提出

計 70 時間(50 分授業)

\*生徒の進路・関心を配慮しながら、各担当者が重点を置く単元を選択する場合もある。

### 3 指導の重点

- ・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。
- ・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

### 4 課題提出物等

- ・定期テストの際に課題を提出。
- ・定期テスト後に板書事項をまとめたノートを提出。

## 5 評価の規準と評価方法

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関する諸事情について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
以上の観点を踏まえ、定期テスト・提出物・授業への取り組みなどを考慮して総合的に評価します。		

## 6 担当者からの一言

ニュースや他のテレビ番組で国名や都市名が出てきた場合に、その国がどの辺りに位置しているのかや都市がどこの国の都市でどの辺りにあるのかを、皆さんの頭の中の地図で連想できるようにしてほしいと思います。そのためには、TVや新聞等で報じられるニュースに触れる機会をこれまで以上に増やしていくことが大切になります。また、地図帳を見る機会を増やし、無料の国内外旅行を地図上で経験しながら、位置関係や都市名、自然環境等を最低限身に付けてほしいと思います。